

# はたらく女性のフロア通信

2009.6.15 創刊号

## 交流と仲間づくり

### 『はたらく女性のフロア』発足を迎えて

4月28日に開催した『フロアかながわ発足ミニ学習会』には、さまざまな分野の方々の出席をいただきました。御多忙のなかをご出席いただいたみなさまに心よりお礼を申し上げます。

会は、代表世話人紺野君子さんの司会にはじまり、発足するまでの経過と会のめざしていることの報告の後、参加者からのごあいさつをいただきました。

神奈川労連水谷議長は、「昨年末から労働組合として「派遣切り」で取り組んできたことで、労働組合を求める人が増えてきている。このことは新しい活動家を育てるチャンスだと思う。この会が組合員の親睦と交流を兼ねた鍋を囲む会(?)などを企画してもらったら労連としても協力したい」。

新日本婦人の会神奈川県本部の高浦さんは「新婦人としてなかなか参加できなかったが、会の発足に期待している。私も30年前に出産して組合づくりをしたら配転された経験がある。そのときに生まれた娘が今年出産する。娘のためにも、孫のためにも働く女性の地位向上に向けてがんばりましょう」。

そのあと、浅井さんの乾杯の音頭でワインと軽食の交流にうつりました。

メインのミニ学習は、1960年代に東芝裁判をたたかった原告前田さんの元気なお話を聞きました。

学習の後、感想を含めて参加者全員が自己紹介と思いを語り合いました。その一部を紹介します。

高橋勝也さん(学習協)「1966年にアルバイト学生として坂田種苗に入社、4年で雇い止めにあい、解雇撤回闘争をした。当時、弁護士には法律では難しい、労働組合で闘うしかないと言われてたが、労働委員会で負けた。東芝の判決はその意味で臨時工の力になる判決で闘いの教訓から学ぶことが必要です。いすずで派遣切りにあった佐藤さんは仲間5人をつれて神奈川労連に相談に来た人です。彼は日頃から寮で仲間づくりに努力して、それも異なる派遣会社の労働者の組合加入につながった。イギリスのパブがそうであるように佐藤さんの鍋料理で飲むだけではなく、学習の場になったことで闘う方向が見えた。フロアが交流と仲間づくりの場になってほしいと願っている」。

中村さん「92年に日立男女差別裁判を闘った。フロアが前田さんのお話のように闘いを切り開いた人の話を若い人に伝える場になったらと思う」。

宮坂さん「東芝を定年退職して5年。熊本から働きに来て、労働組合をなにも知らなかったが、裁判のお陰で臨時工のときから学習協で学んだ。解雇された金子さんの証人になったことで労働者が勝つためには

運動が必要と感じた。勉強していたのでどんな攻撃にもゆるがなかった」。

閉会を君嶋さんのあいさつで終わりました。短時間の交流でしたが、労働組合が定番になっているいま、女性労働者をバックアップする場が求められていることを感じた発足記念ミニ学習会でした。

(代表世話人 伍 淑子)



なごやに発足会は続く！！

40年前の東芝の臨時工裁判がつくった お話:前田多津子さん(元原告)

### 「有期雇用の雇い止め解雇は無効！！」

「臨時工短期更新契約であっても期間満了を理由として傭止めすることはできない。」(1974年 昭和49)、この最高裁判決を勝ち取った東芝争議団の前田さんに当時の闘いを語っていただきました。

前田さんが契約期間満了を理由に解雇されたのは1960年(昭和35)22歳の時で同様に解雇された仲間と本工の労働組合に相談に行きましたが、相手にされませんでした。しかし、翌年この事を知った川崎市内の労働者が「不当首切り犠牲者を守る会」を作り支援を始め、前田さん達は地位保全の仮処分申請で闘いに立ち上がりました。

東芝柳町工場では全従業員の半数が臨時工で、二か月毎に雇用契約を繰り返し、賃金・労働条件の差別を受けながら、本工になれる日を願って働いていました。会社は安く従順な労働者でいつでも首を切れる調整弁として臨時工を利用して、職場サークルの中心メンバーや活動家を

対象に解雇が行われ、他の臨時工への見せしめでした。さらに、柳町工場以外も解雇が行われ、争議団は10人になりました。

1961年(昭和36)9月、3年9カ月働いても本工に登用しない会社のやり方に死をもって抗議した労働者が現れました。彼は遺言で「臨時工の撤廃」を訴えました。

東芝の事件は川崎の労働者全体のものとなり、「守る会」(1962年)会員は千人を超えました。守る会のビラ活動は工場の臨時工の運動と結びつき、労働条件改善に繋がり、労働者の温かさ、強さが大きな励ましとなり、前田さんは「運動で裁判に勝とう」と思ったと語りました。

1974年7月22日の最高裁判決後、職場復帰した前田さんには数々の嫌がらせ、いじめが行われました。しかし、「会社に行っていれば給料がもらえる。生活できる」と思って闘いつづけました。職業病になった時も「なまけ病」と言われましたが、ひとりで労災認定を勝ち取りました。

前田さんは会社もいじめた人を恨まず、この闘争の恩返しができることが自分にとって幸せと、働く者の命と健康を守る会で現在も明るく元気に働いています。

(まとめ 池田 資子)

元気でお話をしている前田さん→



## 職場レポート

### 労働者に期待される労働行政とは

君嶋 千佳子(代表世話人)

今、職業安定所は利用者であふれかえっている。

職業相談をする窓口が150人待ちになったとか、4時間待ちになったとか、或いは、雇用保険受給手続きの最後の人が終わったのが夜9時、その事務処理のため職員は12時まで残った等の話が次々と舞い込んでくる。

何故こんなことになっているのか。

言うまでもなく昨年秋からの大リストラの結果である。その状況は、かつて経験したバブル崩壊時より更に悲惨なものになっている。膨らんだものが弾けたのではなく、企業のスリム化は数年で働く場は荒廃を余儀なくされた。労働者はレンタル商品のごとく扱われ、労働者としての働き方からも人間らしい生活からも疎外されてきた。ぎりぎりまで雇用を守ろうとする経営者も少なくなった。株主配当を増やししながら平然と人員整理を行うことに象徴されるように、法の規制緩和は法そのものの問題点以外に経営者のモラルも格段に低下させてきた。

働く側も連帯や思いやりなどは置き去りにせざるを得なくなる。かくして大量の離職者は傷ついたり病を抱えたりしながら、安定所を訪れている。加えて派遣の横行により、職も住居も同時に失う最悪のパターンが急増した。

この混雑の原因といえるもう一つの側面は行政側にある。行革による省庁再編は行政機能を低下させ、毎年強行される定員削減は職場を確実に細らせている。そのうえ法律や制度は経済財政諮問会議などを始めとした各種会議に振り回されズタズタだ。最近では自民党や民主党の思惑に左右され、実態に合わない制度や運営が迎合的に繰り返されている。行政としての主体性は風前の灯だ。

4時間待たされても、まともに食べていける求人に出会うのは容易ではない。一方では職員が途方もない新制度や改変に少ない定員できりぎり舞いさせられている。この図をどのように切り替えていくか、重たく切実な課題だ。

## 20年ぶりに「はたらく女性の神奈川県集会」開催される。

小島 八重子(世話人)

4月24日、大雨にも関わらず、会場のかながわ建設プラザに、150名を超える労働者が集まりました。年代もさまざま、結構若い人も多く、昔を思い出しました。

集会のタイトル「女性差別撤廃条約30年」を眺め、退職を来年に控えた私自身の女性労働運動にかかわった日々を重ね合わせ、感慨深い集会になりました。今野久子弁護士の話は、働く場での女性差別をなくすために、様々な権利・法律をつくらせてきた女性労働者の闘いの歴史から学び、今の非正規労働者の問題の解決に向けた運動の方向を指し示すもので、とても勇気づけられました。

私が参加した分散会での話し合いも、20代～60代と幅広い年代の方たち20名が出席。「派遣切りで休職中だが自分が悪いのだと思ってしまう」、「退職強要で休業中、生活が苦しいが生活保護を申請するのは恥ずかしい」、「職場が指定管理者制度になりやる気をなくしている」、「非正規の教員は妊

娠すると雇い止めになる」など深刻な実態に対し、参加者から「生活保護は施してはならない。権利と考え申請にいきよう」、「ひとりで悩まないで、仲間を作り情報交換し、闘おう」と励ましの言葉が出されるなど、有意義な分散会になりました。

貧困や非人間的な労働現場の状況を作り出している政府や企業への理不尽な攻撃に対し、昔も今も泣き寝入りをせずに立ち上がる女性たちがいて、歴史が引き継がれ、前に向かっていくことを強く感じた集会になりました。



### ○フロア井戸端会議— 働く女性集まろう！！

日時：6月16日（火）18：30～20：30

場所：はたらく女性のフロア事務所（横浜平和と労働会館1階）

参加は誰でも自由です。気軽にお出で下さい。

井戸端会議は毎月第2火曜日に開いています。

■日程：7月14日／8月11日／9月8日／10月13日／11月10日  
12月8日

いずれも火曜日でご都合のよい日にご参加ください（事前予約はいりません）

#### ■はたらく女性のフロア通信 創刊号

発行：はたらく女性のフロア\*代表世話人 浅井優子／池田資子／君嶋千佳子  
伍淑子／紺野君子／紺野貴美子／澤田幸子／渡辺泰子

発行日：2009年6月15日

連絡先：横浜市中区桜木町3-9 平和と労働会館1階

電話/FAX 045-263-8733 E-mail [wwfk@sea.plala.or.jp](mailto:wwfk@sea.plala.or.jp)